

第四十九回自衛隊高級幹部会同 中谷防衛大臣訓示

おはようございます。日々の国防の務め、誠に御苦勞様です。

本日、2年ぶりに自衛隊高級幹部会同を開催でき、全自衛隊の高級幹部と一堂に会することができ、大変嬉しく思います。

昨年末、防衛大臣に就任してから約1年になりますが、防衛省・自衛隊にとって長年の懸案でありました平和安全法制、そして、省改革に基づき防衛省設置法などの改正を実現させるとともに、日米ガイドラインの改定、ASEAN、日韓・日中防衛相会談が実現するなど、我が国の防衛政策や各国との防衛協力を大きく進めることができました。

短期間に、このような成果を挙げることができたのも、我が国の防衛の最前線に立つ諸官の支えによるものであり、改めて、日々、黙々と任務に精勵頂いている自衛隊員の皆さんに、心から敬意と感謝を表する次第です。

本日は、幹部会同の講師として、JR東海の葛西名誉会長にお越し頂いております。日頃から、我が国の安全保障政策について、的確な御意見や御激励を賜っており、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

葛西会長は、JRの組織改革の際に、「動いているとき、人の気持ちはひとつにまとまる。」との名言を残しておられます。

「リーダーは達成すべき目標を定めて、それに向かって動く人間でなければなりません。動いているときというのは、人の気持ちはひとつにまとまります。だから、常に受動ではなく、能動であらね

ばならない。」との言葉ですが、正に、統率者に必要な資質であり、要諦であります。

本日は、我々に対する御意見や御提言を頂く貴重な機会であり、午後からの御講演を頂きますが、よろしく申し上げます。

さて、現在、我が国周辺の安全保障環境は大きく変化しております。いわゆるグレーゾーン事態が増加・長期化する傾向があるほか、周辺諸国の軍事力の強化や軍事活動の活発化の傾向がより顕著になっています。特に、軍事的活動を急速に活発化させている中国や、弾道ミサイルや核兵器の開発を進める北朝鮮の動向は、今後も強い関心を持って注視していく必要があります。

また、グローバル化と技術革新が急速に進む中、国際テロの増加など、一国・一地域で生じた混乱が直ちに国際社会全体の課題となるリスクが高まっています。

このような現実を直視した上で、今後取り組むべき課題を4項目申し述べたいと思います。

まず第一に、平和安全法制です。

我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、我が国の存立を全うし、国民の命と平和な暮らしを守り抜くためには、あらゆる事態に対して切れ目のない対応を行う態勢を整えなければなりません。平和安全法制については、現在、法律の施行に向け、各種の準備・検討を慎重を期して十分に積み重ね、万が一の場合にしっかりと対応できる態勢を周到に作り上げている作業中であります。

その際、隊員が迷うことなく、安全に、確実に、任務を達成するような規定を整備しておかねばなりません。

今後とも、省内の検討を深め、関係省庁と連携しながら、その施行に向けて、準備を進めていくとともに、法律の必要性について、国民の皆様の理解が深まるよう引き続き努力を続けてまいります。

二点目は、日米同盟の強化と沖縄の基地負担の軽減についてです。本年4月、日米「2+2」を開催し、18年ぶりにガイドラインを改定致しました。

カーター長官とは、今年だけでも4回の防衛相会談を行い、先月には、私がハワイを訪問し、ハリス米太平洋軍司令官をはじめ陸海空海兵隊司令官とも会談をしてきました。

特に、ハワイでは、米軍のリバランス政策をはじめ、C2BMC、CECやNIFC-CA等の米軍の新たな取り組みについて見聞きしてまいりましたが、現在の日米の緊密な連携は極めて、信頼に基づいたしっかりとしたものでありました。

今後とも、日米間の様々なレベルでしっかりと連携しながら、新たなガイドラインに基づき、日米同盟の抑止力と対処力を一層強化し得る体制を構築するために、担当部局におかれましては、調整や協議を推進して欲しいと思います。

また、日米同盟を十分に機能させるためには、米軍の抑止力を維持しつつ、沖縄の地元の基地負担軽減をすることも重要です。

全国の基地や演習場で、さらに日米共同使用や各種訓練などの調整を進めると同時に、多くの米軍基地が所在する沖縄の負担軽減については、できることは全て行うとの政府の方針に従い、普天間飛行場を始め、沖縄の人口密集地に所在する基地などの返還とともに、

部隊の移駐や訓練の移転などに取り組んでいるところであり、今後とも目に見える形で実現するべく力を尽くしていきたいと考えています。

三点目は、各国との安全保障協力を推進することです。

米国に限らず、基本的価値や安全保障上の利益を共有する国々との防衛協力・交流は不可欠です。

私自身、初の日英「2+2」を皮切りに、各国の国防大臣等と個別に会談を行ってまいりました。

10月には、韓国を訪問し、日韓及び日米韓の協力の重要性について、両国間で認識を一致しました。

また、先月には、4年5か月ぶりに、日中防衛相会談を行い、防衛当局間の海空連絡メカニズムの早期運用開始や防衛対話や東アジアの安全保障環境について意見交換し協議を致しました。

さらに、「特別な戦略的パートナーシップ」である豪州を訪れ、「2+2」や防衛相会談を通じ、日豪防衛協力の更なる強化等について議論を行いました。

今後とも、ASEAN、インドをはじめ世界各国の様々なレベルでの防衛対話や能力構築支援、共同訓練、新設の防衛装備庁を中心とした装備・技術協力を進めることで、各国との連携を一層強化していきます。

また、今年は、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動の一環として、我が国から初めて多国籍部隊に司令官を派遣しました。南スーダンPKOへの協力も含め、引き続き国際社会の取組に積極的に関与していきます。

四点目は、防衛態勢の強化です。

そのためには、陸・海・空の三自衛隊が一致団結して、様々な状況に臨機に即応できるよう、より実効的な「統合機動防衛力」の構築を一層進めていかなければなりません。

本年10月には、統合幕僚監部への実際の部隊運用業務の一元化を行い、統合運用機能が強化されました。防衛態勢の強化を図る上でも、統合マインドの醸成、統合任務部隊及び陸海空各メジャーコマンド（MC）の在り方について、装備品等の整備・補給の在り方、陸海空自衛隊との連絡・指揮通信、衛生・病院の在り方を含めた後方支援体制などの課題がたくさんあります。

今後とも、内幕が吻合調整し、省内の組織があいまって、適切な部隊運営の在り方が確立できるように検討を進めてほしいと思います。

私は、防衛大臣就任時の基本方針として、「原点回帰」を掲げました。

これは、いかなる事態においても、自分の立ち位置、役割、基本事項を理解し、身につけていなければ、想定外の緊急事態に対処することはできないからです。

私は、現在、全国の部隊訪問をしています。どの部隊や基地へ行っても、一人一人の隊員から、任務達成の熱い思いを感じます。

これも、陸海空の各級指揮官・幕僚が、厳しい環境の下、自らの勤務方針を掲げ、部隊を錬成し、能力を高め、素晴らしい部隊運営をしていただいているからであり、心から感謝しております。

隊員も、それに応えて、整齐と、意欲と目標をもって勤務していただいています。まさに、だれ一人かけても、日本の防衛は全うできません。

自衛隊はプロの技術集団であるとの思いを強くしております。

そんな中で、情報保全や事故防止、規律の遵守という「基本」の徹底は、大変、難しいことではありますが、指揮官・幕僚である皆さんの力量と人間力により、しっかりとこれが実施できるよう願いますしかありません。

「勇将の下に弱卒無し」

人を動かす将官に必要なものは、熱意であり、部下に好かれる度量を持つことであり、先を見通す力・判断力があり、そして、常に、部下の行動には、自らが責任を取るという愛情と覚悟です。

「百尺竿頭一步を進む」

これは、百尺の竿の先に、なおその先に一步進もうと努力することであり、高級幹部の皆さんには、物事が起こっているうちに、どんどんとその先を読んで、手を打つこと、事態の進展に遅れることなく、さらに一步進めて考え行動していくことが大切だということです。

安全保障に思考停止があってはなりません。私も、本日、集まっている皆さんと心を一つにして、国民の負託に応えるべく、国家の存立と国民の暮らしを守りぬくという決意を新たにし、引き続き職責を全うすることを固く誓い、私の訓示といたします。

最後に皆様方の健康と益々の御活躍を祈念申し上げます。

平成二十七年十二月十六日

防衛大臣 中谷 元